令和８年（2026 年）11 月 16 日

新潟県　新潟県観光協会 Niigata Prefectural Tourism Association

米『Condé Nast Traveler（コンデナスト・トラベラー）』

「2027 年に行くべき旅行先 27 選」に新潟県が日本から唯一選出

日本史上初 『National Geographic』に続き、アメリカの旅行専門２誌に同年選出（2 冠）



「The 27 Best Places to Go in 2027」の新潟県の紹介ページでは、メインの写真に新潟県の棚田の風景が採用されました。

新潟県が、米国の有力旅行専門誌『**Condé Nast Traveler（コンデナスト・トラベラー）**』が毎年発表する「The 27 Best Places to Go in 2027（2027 年に行くべき旅行先 27 選）」に選出されました（現地時間 2026 年 11 月 13 日公開）。世界各地から選ばれた 27 の旅行先のうち、**日本から選ばれたのは新潟県のみ**です。

新潟県は、10 月 20 日（現地時間）に公開された『National Geographic（ナショナル ジオグラフィック）』の「Best of the World 2027（2027 年に行くべき世界の旅行先 25 選）」にも日本から唯一選出されています。**米国の旅行専門３大誌**（ナショナル ジオグラフィック、コンデナスト・トラベラー、トラベル＋レジャー）**のうち２誌に、同じ年に同一の都道府県が選ばれたのは、**訪日外国人旅行者数が 1,000 万人を突破した 2013 年以降、**新潟県が初めて**です。（2013 年以降、新潟県観光協会調べ）

1　選出の概要

媒体	Condé Nast Traveler（コンデナスト・トラベラー）／米国
特集名	The 27 Best Places to Go in 2027（2027 年に行くべき旅行先 27 選）
公開日	2026 年 11 月 13 日（現地時間）
選出数	世界 27 か所（日本からは新潟県のみ）
新潟県の紹介テーマ	Go for: landscapes reimagined through art（アートによって生まれ変わった風景を訪ねて）

掲載 URL	https://www.cntraveler.com/story/27-best-places-to-go-in-2027#niigata-japan-asia

2　「Best Places to Go」とは

「Best Places to Go」は、コンデナスト・トラベラーが年に一度発表する、翌年に訪れるべき旅行先の決定版ガイドです。同誌の編集者が、ライターや旅行の専門家、世界各国の編集者の知見を集め、数か月にわたる調査と絞り込みを経て選定しています。

2027 年版は、単に魅力的な旅行先を並べたものではなく、「今、人々がどのように、なぜ旅をしているのか」を映し出すリストとして構成されています。訪れる人と受け入れる地域とのつながりを深めるゆっくりとした旅や、土地に根ざした食と長く受け継がれてきた食文化、夏の混雑を避けた旅先への関心の高まりなどが、選定の背景として示されています。

27 選には、新潟県のほか、エジプトのルクソールとアスワン、中国の上海と雲南、マレーシアのペナン、フランスのコルシカ島、エクアドルのガラパゴス諸島、米国のメンフィスとサンディエゴなどが並んでいます。アジアからは 7 か所が選ばれ、日本からは新潟県が唯一の選出です。

3　新潟県の紹介記事の内容（要旨）

紹介テーマ：アートによって生まれ変わった風景を訪ねて

東京から約 2 時間。新潟は、日本の大都市を離れて、山の風景や文化的な祭り、農村の遺産に目を向けるべき理由を示す旅先として紹介されています。

地方へと向かう日本の旅と「里山」

- 日本の旅はもはや大都市だけのものではなく、持続可能な観光に関心のある旅行者の関心は、東京から約 2 時間の新潟県のような地方へと移りつつあると紹介。
- 人の暮らす里と山が接し、森林や農地を自然と調和しながら守ってきた「里山」の考え方を解説。人口減少によりこうした文化的景観が失われつつある中、新潟では「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」が、地域を再生する観光（リジェネラティブ・ツーリズム）のモデルになっていると評価。
- 芸術祭は 2027 年 7 月に第 10 回を迎え、創造性によって地域をよみがえらせる現代アートの祭典として紹介。

越後妻有　大地の芸術祭

- 十日町市と津南町にまたがる越後妻有は、棚田、森、集落が広がる地域。芸術祭では国内外のアーティストによる大規模な作品が、使われなくなった建物や屋外空間に展開されている。
- 代表的な作品として、MAD アーキテクツによる清津峡渓谷トンネルの「Tunnel of Light」、廃校を舞台にしたクリスチャン・ボルタンスキーの「最後の教室」を紹介。

・芸術祭が過疎化の進む集落に収益をもたらし、地元住民がガイドや受け入れ役として関わることで、収入が地域内にとどまる仕組みになっている点を評価。

・オーバーツーリズムが日本の人気観光地の課題となる中、文化観光が観光ルートから外れた地方を支えられることを示す取組として位置づけ。

地域に根ざした宿泊施設

・この考え方は新潟の宿泊施設にも広がっているとして、2026 年 6 月に開業した「NIPPONIA 新潟古町 花街」を紹介。新潟市の花街にある歴史的建物 3 棟を分散型ホテルとして再生し、まち全体をホテルに見立てて、芸妓の演舞などの文化体験に参加できる。

・糸魚川市の山あいで 2026 年 1 月に開業した、1 日 1 組限定の分散型宿「宿屋 堂道」も紹介。春の田植えや冬のかまくらづくりなど、集落の日々の営みを体験しながら滞在できる宿。





（画像左）「NIPPONIA 新潟古町 花街」（新潟市）では宿泊者はもれなく芸妓の踊りを鑑賞できる。

（画像右）「堂道」（糸魚川市）は一村貸しをコンセプトにした宿。

4　旅行専門 3 大誌のうち 2 誌に、新潟県が同年選出（都道府県で初）

米国の旅行専門 3 大誌（ナショナル ジオグラフィック、コンデナスト・トラベラー、トラベル＋レジャー）は、いずれも選出数が 20～50 か所程度と狭き門で、すべてが「デスティネーション（旅行先）単位」で選ばれます。

今回の選出は、ニューヨーク・タイムズやロンリープラネット、TIME などの選出数が多く、宿泊施設や体験も混在するリストとは重みが異なります（別紙 1 参照）。

この 3 大誌において、同一の旅行先が同じ年に 2 回選出されたのは、訪日外国人旅行者数が 1,000 万人を突破した 2013 年以降、新潟県が初めてです（別紙 2 参照）。

■ ナショナル ジオグラフィックとコンデナスト・トラベラーの選出比較

媒体	特集名	公開日（現地時間）	主な評価
National Geographic（ナショナル ジオグラフィック）	Best of the World 2027（2027 年に行くべき世界の旅行先 25 選）	2026 年 10 月 20 日	越後妻有エリアのユニークな芸術祭、何世紀も続く発酵文化
Condé Nast Traveler（コンデナスト・トラベラー）	The 27 Best Places to Go in 2027（2027 年に行くべき旅行先 27 選）	2026 年 11 月 13 日	大地の芸術祭による地域再生型の観光、地域に根ざした分散型の宿泊施設

・新潟県は、2025 年に佐渡（TIME「World's Greatest Places」）、2027 年に新潟県（ナショナル ジオグラフィック、コンデナスト・トラベラー）と、この 2 年間で計 3 媒体に選出されています。主要観光地以外では初めてとなる「複数年・複数媒体」にわたる継続的な評価です。

5　新潟県・新潟県観光協会の取組の成果

今回の選出は、ナショナル ジオグラフィックに続き、新潟県・新潟県観光協会が推進する観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業（佐渡・新潟エリア）」の成果の一つといえます。

同事業では、フランス、イギリス、オーストラリア、アメリカのメディア関係者や旅行会社を新潟県に招へいし、海外での露出拡大と旅行商品の造成を進めています。

今後も、海外メディア・旅行会社の招へいなどを通じて新潟県が持つ多彩な魅力を国内外に積極的に発信し、さらなる大きな露出と、高付加価値な旅行者の誘客につなげてまいります。

6　参考：Condé Nast Traveler（コンデナスト・トラベラー）について

米国の大手出版社コンデナスト社が発行する旅行専門誌です。1987 年に米国で創刊され、上質で本物志向の旅を求める読者に向けて、世界各地の旅行先やホテル、食の情報を発信しています。読者投票による「Readers' Choice Awards」や、優れたホテルを選ぶ「Gold List」などでも知られています。ナショナル ジオグラフィック、トラベル＋レジャーと並び、米国の旅行専門 3 大誌の一つに数えられます。

【本件に関するお問い合わせ先】

公益社団法人 新潟県観光協会	担当：白井・櫻田	TEL：025-283-1188（内線 2862） E-mail：info@niigata-kankou.or.jp

（別紙１）媒体カテゴリの違い

旅行専門 3 大誌、報道メディア、ガイドブック出版社、放送の選出数と「デスティネーション単位」の有無

区分	媒体	選出数	代表的なリスト名
旅行専門 3 大誌	**ナショナル ジオグラフィック**	25 選	Best of the World
旅行専門 3 大誌	**コンデナスト・トラベラー**	27 選	Best Places to Go
旅行専門 3 大誌	**トラベル＋レジャー**	50 選	50 Best Places to Travel
報道メディア	ニューヨーク・タイムズ	52 選	52 Places to Go
報道メディア	TIME	100 選	World's Greatest Places（ニュース誌の特集。宿泊施設と体験が混在）
ガイドブック出版社	ロンリープラネット	50 選	Best in Travel
放送	BBC／CNN	約 25	冠リストとしては限定的

※網掛けは旅行専門 3 大誌。3 大誌は選出数 20〜50 の狭き門で、すべてが「デスティネーション単位」。NYT、ロンリープラネット、TIME は選出数が多く、宿や体験も混在するため重みが異なる。

（別紙２）2013 年以降の日本のランクイン実績

媒体別・年別の収録一覧（—はその年の該当媒体で日本未選出、未発表は 2027 年のみ）

年	英国版 NG	ナショナル ジオグラフィック（米）	コンデナスト トラベラー（米）	T+L（米）	NYT	TIME	日本の選出状況
2013	—	京都	—	—	—	—	1
2015	—	高野山（和歌山）	—	—	—	—	1
2016	—	—	—	三重	—	—	1
2019	瀬戸内（1 位）	—	瀬戸内	東京（19 位）	瀬戸内の島々	—	分散（瀬戸内 3・東京 1）
2020	—	東北	沖縄	京都	東京	—	各 1（分散）
2021	—	なし	京都	米国内特別編	北海道	—	1
2022	—	—	九州（ななつ星）	九州	京都	—	九州＝地方単位
2023	—	—	西日本	京都	盛岡	—	各 1（分散）
2024	—	京都（体験部門）	神戸	北海道	山口	—	各 1（分散）
2025	—	金沢	—	大阪	富山・大阪	那智熊野大社／**佐渡（NIPPONIA）**	1
2026	—	山形	直島（香川）	沖縄	長崎・沖縄	伊勢神宮（三重）	沖縄 2（報道系＋出版社）
2027	—	**新潟**	**新潟**	—	**未発表**	**未発表**	**新潟 2（3 大誌内）**

※英国版 NG＝英国版ナショナル ジオグラフィック・トラベラー「Cool List」。T+L＝トラベル＋レジャー。NYT＝ニューヨーク・タイムズ。

出典

① JNTO プレスリリース「Best of the World 2027 新潟選出」（nationalgeographic.com／jnto.go.jp）
② Condé Nast Traveler 公式リスト「The 27 Best Places to Go in 2027」（cntraveler.com）
③ Travel + Leisure「50 Best Places to Travel」各年版（travelandleisure.com）
④ The New York Times「52 Places to Go」各年版（nytimes.com）
⑤ ロンリープラネット「Best in Travel」各年版／TIME「World's Greatest Places」（lonelyplanet.com／time.com）
⑥ 京都市観光協会資料（京都ランクイン関連）（kyoto-kankou.or.jp）
⑦ 和歌山県知事メッセージ（2015 年 高野山選出）（pref.wakayama.lg.jp）
⑧ せとうち DMO「欧米有力旅行雑誌で SETOUCHI 続々ランクイン」（2019 年 瀬戸内 6 媒体選出）